

# すべての人の体内でがん細胞は発生します。私達は簡単にがんになってしまうのでしょうか？

- ある計算によりますと、人の一生の間には、10億回ものがん細胞が発生する機会があるとされています。しかし、人は簡単にはがんになりません。
- それは、体内の「免疫系」と呼ばれる働きが発生したがん細胞を破壊して、がんの発症を防いでいるからです。免疫系に關与する重要な細胞群のひとつに、マクロファージという細胞があります。マクロファージは、体内に生まれたガン細胞をまっさきに攻撃します。そして、他の免疫担当細胞にがん細胞の情報を与えて、免疫系が活性化するように働きかけます。

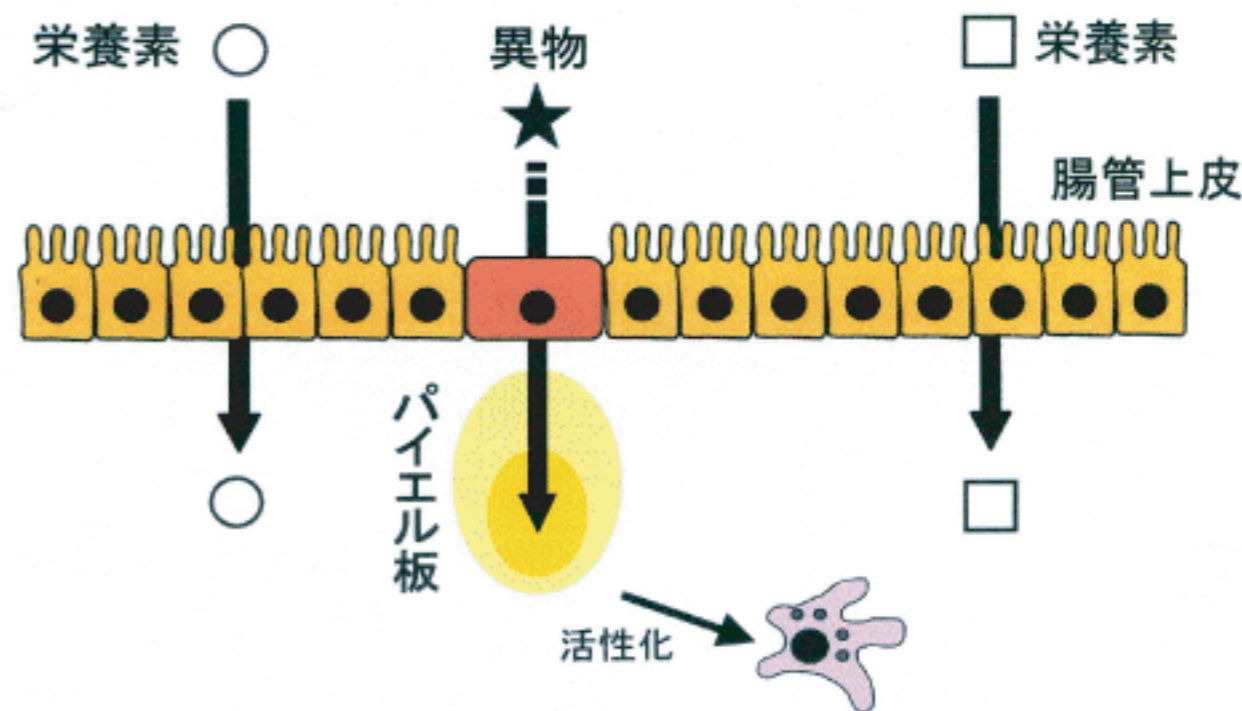


免疫の70%は腸管免疫

# 注目集める 腸管免疫

腸管には免疫全体の約70%が集中しているといわれています。人間はヒドラ(体全体が腸)から進化しています。腸が免疫の最前線であることが分かります。

人体が外界と接している面積の90%は粘膜であり、常に微生物の侵入にさらされています。通常、粘膜は単なるバリアー機能を発揮していれば良いのですが、腸管は栄養を吸収する器官でもあるので、すべてを拒否することは出来ません。従って、腸管免疫はとりあえず全ての異物を受け入れ、栄養素であれば吸収し、体内に侵入すると都合の悪いものに対しては防御機能を発揮します。(=免疫)



腸管には様々な腸内細菌が生息しています。これらの細菌により腸管免疫が刺激されて、通常、免疫力が高められた状態にあります。よって、無菌環境で飼育して腸内細菌のいない動物は通常動物に比べると、免疫機能及び免疫関連機関(リンパ節、脾臓)の重量が低下しています。

全身にあるリンパ球の50~60%が腸管に集中している事実からも腸管が重要な器官であることが良くわかります。

乳酸菌などの有用微生物は小腸パリエル板を介してヒトの免疫力を向上させることが知られています。